



川崎大師ロータリークラブ 週報

例会日：毎週水曜日 PM12:30～
 例会場：大本山川崎大師平間寺信徒会館
 事務局：〒210-0812 神奈川県川崎市川崎区東門前1-15-10 カーサ石井1F
 Tel.044-277-7569 Fax.044-288-8550
 URL <http://www.kawasakidaishi-rc.com/> E-mail:daisi-rc@eagle.ocn.ne.jp

会長 細谷 重徳
 副会長 伊藤 善通
 幹事 横山 俊夫
 SAA 山村 友弘
 岩井 茂次

第1806回（本年度 第34回）例会 平成22年3月17日 一晴一

- 司会 岩井 茂次 SAA
- 点鐘 細谷 重徳会長
- 斉唱 それでこそロータリー

卓話者のご紹介 細谷 重徳会長
 桐高学園インターアクトクラブ 顧問
 林 直子（はやし なおこ）様

ゲストのご紹介 細谷 重徳会長
 県立大師高校インターアクト 原 加奈様

ご挨拶 原 加奈様
 私は今後看護師になるため、看護短大に進もうと思っています。
 私は、インターアクトに入る前まで、自分の中に閉じこもっていて、何をやるのも自信が無く、学校に行くのも嫌でした。インターアクトに入ることによって大きな視野を持って活動出来る様になりましたと共に、学校内で仲間を作ることが出来ました。そして皆様の支援のおかげでタイ研修に行き、日本とタイの違いを知りました。日本がどの位恵まれているかを知りました。その時にそのタイの子供達と知り合いになりました。この小さな子供達が人身売買に巻き込まれているという事も知りました。わたしはそれを3年間のテーマと決め、人身売買について現場で働いていたボランティアの方々と知り合い、色々な話を聞きました。それを自分の中で止めておくのではなく、学校の課題研究発表会で報告し、同世代の高校生に呼びかけをしました。
 私は、高校に入って人身売買という問題は何も知らなかったし、タイに行くまでは何の知識もありませんし、友人もタイにいませんでした。ですが、タイに行き、ロータリークラブの皆様ののおかげでタイに行き、タイの友人や子供達、そしてボランティアの方々と友達になり、自分で発表したいと思うようになりました。人身売買の発表をしてそれで終わりというわけではありません。これからが人身売買について話していくスタートなのだと思います。これから看護学生として、ロータリーアクトとして色々な経験を積み、社会に役立つ大人になりたいと思っています。
 私は、3年間インターアクトで活動をし、本当に楽しかったし、仲間にも大人達にも恵まれ、本当に良かったと思っています。視野を大きく広げて活動出来るのも、沢山の友人に恵まれたのも、そして卒業式の日卒業生代表として答辞をよむことができたのも、それは全て大師ロータリークラブの皆さんのおかげだと思っています。本当に有難うございました。
 そして私はこれからがスタートだと思っています。ロータリーアクトに進み、皆様とまた出会う機会があると思います。無知な私ですが、これからも頑張っていこうと思っていますので、応援そしてご支援を宜しくお願い致します。
 有難うございました。

来訪ロータリアンのご紹介 神田 正彦親睦委員長
 川崎中央RC 谷口 善規様
 川崎マリーンRC 福嶋 安行様
 横浜南RC 川崎 智晴様

会長報告 細谷 重徳会長
 ・3/21 市民プラザ RYLA（石川委員長）開講
 細谷会長・山村幹事出席します。

幹事報告 山村 友弘幹事
 メールBOX
 ・4月例会予定内容
 4/14 お花見移動例会

回覧
 ・財団学友 吉田様より手紙・コンサートご案内
 ・米山記念館より館報・春季例大祭のご案内
 （参加ご希望の方はご記入お願いします）
 ・地区より 3/1～3/末 川崎横浜近辺のタクシーにロータリー宣伝ステッカーが貼られています。アンケート（ステッカーを見ましたか。何台位。横浜ですか川崎ですか等） 来月初めまで3回にわたり回覧しますのでご覧になりました情報をご記入ください。
 ・他クラブ例会変更の案内

出席報告 小林 勇次出席委員長

	会員数	対象者	出席	欠席	出席率
1806回	75	66	46	20	69.69%
1807回	73	66	46	20	69.69%
前々回の修正	メークアップ 9名		修正出席率		83.33%

メークアップ
 鈴木(幹)会員、大藪会員、竹田会員、渡辺会員、清水会員、岩崎会員、川又会員、長倉会員、荘司会員

スマイルレポート（ニコニコボックス） 伊藤 善通副会長

横浜南RC 川崎 智晴様
 林先生の卓話を聞きに来ました。竹中さん、横山さんお久しぶりです。

川崎中央RC 谷口 善規様
 お世話になっております。本日はメイクです。

川崎マリーンRC 福嶋 安行様
 本日は御世話になります。

野沢 隆幸会員
 過日、家内の誕生祝いの花を有難うございました。花好きですので大喜びです。

宮山 光男会員
 林様、本日の卓話宜しくお願い致します。

松井 昭三会員

明日からお彼岸入です。川崎大師では正御影供祭(しようみえくまつり)で、ご本尊のご開帳もあり賑わう事でしょう。

竹中 裕彦会員

①林先生の卓話を知った大師公園の桜が、恥しがってつぼみ(・・・)を固めてしまいました。本日は宜しくお願ひ致します。

②川崎さん、お久しぶりです。

武者 惠吾会員

林先生、本日は卓話宜しくお願ひします。半年前より楽しみにしていたのに例会に出席出来ずに残念です。台湾よりエールを送らせて頂きます。

竹田 正和会員

所用の為、早退します。

白石 浩司会員

今日は、息子の卒業式の為に早退します。

神田 正彦会員

沖縄から昨日帰りました。留守してる間ご迷惑かけました。船木君、飯塚君入会おめでとございます。

清水 宏明会員

義父殿ようこそ大師RCへ!

荘司 高俊会員

先日は動物村ありがとうございました。子供たちも大変喜んでいました。心よりお礼申し上げます。

細谷 重徳会長

花見例会には全員の方に出席をお願い致します。花見をして良い気分になりましょう。

山村 友弘会員

次週の殿町小ポスター貼り多くの皆様のご参加宜しくお願ひ致します。

本日のニコニコのテーマ

林様 本日の卓話宜しくお願ひ致します。

坂東 保則会員、仲川 文則会員、伊藤 善通会員、
矢野 清久会員、鈴木 幹久会員、長倉 連治会員、
後迫 太会員、石渡 勝朗会員、長島 亨会員、
弦巻 敏夫会員、大藪 善一会員、眞鍋 勝宏会員、
数見 勝彦会員、小林 勇次会員

合計 94,000円

委員会報告**社会奉仕委員会**

荘司 高俊会員

3/2 観音幼稚園にて1日動物村開催しました。
ひよこ・ウサギ・アヒル・やぎ 300名近い園児らが、生きた小動物とふれあうことでとても感動しておりました。卒園する子どもたちにも良い思い出になり、どうもありがとうございました。

社会奉仕委員会

矢野 清久委員長

桜のポスター貼り 殿町小と共同で3/24(水)に行きます。

例会前 9:00殿町小集合 9:15出発

雨天中止 多くの皆様にご出席をお願い致します。

ロータリー情報委員会

野沢 隆幸委員長

・第2回ファイヤーサイドミーティング開催

4/5~4/16迄で日程を選定して頂きたい。

テーマ 「ロータリー財団への視点」

ロータリー財団へ基金を支援しておりますが、基金がいかにも有効に活用されているかという報告を2004年から2009年までのロータリー情報の報告書がありますので、

その報告書に基づいてご理解・認識を深めて頂ければと思います。資料は24日の例会時にメールBOXに入れます。リーダー 鈴木昇二会員Aグループ、増田 昌美会員Bグループ、竹中 裕彦会員Cグループ、仲川 文則会員Dグループ、竹田 正和会員Eグループ宜しくお願ひ致します。日程、会場がダブらない様にうまく調整して下さいと思います。

・2/26・2/27 大阪において

第2660地区 地区大会(野沢委員長、竹田会員出席)
日韓親善会議で2660地区大谷 透ガバナーと同席し友好が深まり、夕食会も同じ場所でお会いし益々ご縁が深くなった。大谷ガバナーより招待状が届き参加をしました。

地区大会には2002~2003年に国際ロータリーの会長ピチャイ・ラタクルさんの代理の講演を聴いたり、大阪の方々との友好を深めたりしての2日間でした。大谷会長より丁寧なお礼状を頂きました。当クラブのバナーを何枚かお渡ししました。あちらかのバナーが到着しましたら披露いたします。

地区RYLA委員会

石川 庸委員長

先ほど会長・幹事のご出席を頂けると聞きまして力強く感じ、非常にうれしく思いました。

地区に出向している人間としてはクラブの支援があるという事は非常に心強く感じます。有難うございます。

RYLAに来た時の特典

- ・お昼時、夕食時はお弁当が無料で食べられます。
- ・車で来ても駐車場があります。
- ・今日の卓話者である林先生に会える。

是非皆さん素敵なお林先生に会いに来て下さい。

卓話者紹介

長倉 連治プログラム委員長

1990年 清泉女学院におつとめ。

1994年より桐光学園におつとめ、1997年よりインターアクトクラブ顧問。大師高校インターアクトクラブの立ち上げにもご尽力頂きました。

卓話者

桐光学園中学高等学校インターアクトクラブ顧問

林 直子様

「底が抜けた時代の新世代育成」

IACは、ロータリアンの皆さまが青少年にロータリーの精神を伝えてくださり、リーダーシップを育ててくださる教育プログラムです。現在地区には18の学校にIACがございますが、それぞれのIACはロータリアンの皆さまから物心ともにご支援をいただいております。さまざまな活動の機会をいただいている、例えば区民祭りや薬物乱用防止キャンペーン、市内統一美化活動、国際交流などにお誘いいただいております。また生徒達が自発的に行っている募金活動や障害者さんの施設への協力などに一緒にござったりもしています。このようにして、学校の枠の中だけにあっては、決して経験することのできない活動や、決して出会えることのない方々と触れ合えます。ロータリアンの皆さまがお持ちになっている広いフィールドは、生徒達の活動に無限の可能性をプレゼントしてくださっています。

活動の柱は、社会奉仕・国際理解・親睦の三つですが、いずれも真のリーダーシップを育てる一つの道につながっています。

今年度のIAC年次大会ホスト校は桐蔭学園中等教育学校でした。プログラムの挨拶の中で、リーダーシップに何より必要とされる「思いやりの心」の本質について、顧問教師の岡先生が次のようにおっしゃっています。

「宮澤賢治の『銀河鉄道の夜』の中で、ジョバンニがこんなふうにつぶやいています。『ああ、その大きな海はパシフィックというのではなかったらうか。その氷山の流れる北のはての海で、小さな船に乗って、風や凍りつく潮水や、烈しい寒さとたたかって、たれかが一生けんめいにはたっている。ぼくはそのひとにほんとうに気の毒でそしてすまないような気がする。ぼくはそのひとのさいわいのためにいったいどうしたらいいのだろう。』

あのタイタニック号の遭難にあった子供たちが、銀河鉄道に乗ってきた場面です。『銀河鉄道の夜』が書かれたのとタイタニック号の事故との間には12年ほどの隔りがあります。日本の岩手県と大西洋との空間的隔りも、感覚的には現代とは比べものにならないほど大きなものだったと思われま。それほど時間的・空間的隔りを超えても、宮澤賢治という

人には居ても立ってもいられない思いがあったのでしょう。この地球上のどこかに一人でも苦しんでいる人や困っている人がいることが、やりきれないほど切なかったのだと思います。」と、このように岡先生は、インターアクトが行っている奉仕活動とは、ふだんの生活の範囲だけでは知ることのできない場面に身を置く経験といえる一面があり、そうすることで自分の視野を広げ、以前は感じられなかったことが感じられるようになると述べておられます。

身近で困っている人のことを考えるのは、たいの人間にできるでしょう。しかし、われわれは生徒達に、遠くにいる見えない人の痛みがあることに思いを馳せられる人間になってほしいと願っています。

ロータリアンの皆さまが世界で育てようとなさっている「奉仕の心」を青少年が実践しているのが、インターアクトです。提唱して下さっているIACに、これからもぜひ様々な奉仕や交流の機会を提供していただきたくお願い申し上げます。また、活動を活性化するためには、提唱RCと顧問がよくコミュニケーションをとって下さることが大切です。顧問の方でも、ロータリアンの皆さまとの人間関係を積極的に築いていくことが不可欠です。皆さまからも、高校生が参加できるロータリーの活動であれば、一緒にやりませんか？と、ぜひまめにお声をかけていただくと有り難いです。

ここからは、昨今の教育現場や世の中の動きについてお話しさせていただきます。

私が勤めている学校は一応進学校と呼ばれ、約2,900名の生徒がいるマンモス校で生徒達の学力差は大きいものの、全体的には落ち着いて勉強している学校だと思います。底辺校といわれている学校の様子を聞くと荒れていて教科指導をするところまで行き着かないところもありますから、教師としては比較的恵まれている環境だと思えます。

しかし大きな問題がない訳ではありません。開校して30年を過ぎたところですが、かつて今よりも学力レベルはるかに低かった時代にはなかった新たな事態が起こっています。

うちの中1から高3までの男女別学ですが、例えば、今の中学2年生男子の状態。それは、昨今言われている学級崩壊のように授業中に勝手に話したり席を立ったりするだけでなく、大勢でゴミ箱から空のペットボトルをひっぱり出して、その中にわざわざ水や砂利をつめて教壇の教師に向かって投げつける、ということが頻繁にありました。そのペットボトルを投げつけられた女性の先生は「生徒を提訴することを考えている」と言っていました。

この生徒達はほかに、音楽の授業で教室を移動する時に皆で逃げ出してしまい、集団で授業をボイコットしたこともあります。さらには授業中に教壇にある教卓を2階の窓から外へ放り投げて、教卓をめちゃくちゃに壊してしまったこともあります。

ペットボトルを教師に投げたり、教卓を窓から投げたりした子の保護者に事実を報告したところ、返事は「先生からの話では、本当かどうか分からないから、うちの子の話を聞いてから考える。」でした。その後子どもが帰宅してから再び電話連絡をしたところ、「うちの子はそんなことはしていないと言っている。先生が嘘をついている。」と学校に対して腹を立てていました。こういう親ですから、教師が学校での生徒の様子を報告しても信じようとせず、かえって学校への批判を高めていきます。こうなると保護者の協力がまったく得られない訳ですから、生徒の行動があらたまるはずがありません。

こういった荒れ具合は、中学2年生男子の中でもクラスによって差があります。もっともひどいクラスでは、生徒に対する担任の働きかけにまったく耳を貸さないどころか強い反発を示して、指導をいっさい受け付けなくなってしまいました。こうなると担任と生徒との関係が完全に壊れてしまった訳で、校長もしかたなく年度の途中であるにもかかわらず担任を替えました。本校は、一つのクラスを担任と副担任で受け持つ二人担任制にしています。そのクラスでは一人の担任をはずして、学年主任を含む別の教師二人を担任にしました。はずされた担任は、私とも同僚から見ても指導力が不足しているとは思えないしっかりした教師です。このクラスの場合は、ほかのどの教師が担任していても、恐らく同じような状況になったと思われるでしょう。

こういった問題行動を起こす生徒達については、私学なのでからたとえ義務教育であっても、どんどん退学処分にするべきです。しかし、校長は一度に複数の退学者を出したことがマスコミに取り沙汰されたり、その生徒が小学生の時に通っていた塾からのクレームが来たりすることを心配して、なかなか退学にはしません。ようやく先日一人の生徒が退学になった程度です。

私は今年度はこの中学2年生男子クラスの授業を担当していませんが、昨年度1年生の時に一クラス授業をもっておりました。その時から、こういった状況に至る兆候はありました。入学したばかりの4月の授業から、勝手なおしゃべりをしていましたし、何人も生徒が授業中席を立ってうろろしたり、教室から勝手に出て行ったりしていました。

私はペットボトルを投げつけられることはありませんでしたが、丸めた



紙くずや、消しゴムを投げつけられることはしょっちゅうでした。いくら厳しく叱っても、一向にあらたまりませんでした。授業中、生徒達が笑いながら高らかにこのように言いました。「先生達は体罰禁止だから、俺たちに絶対対手は出せないよな。もし殴ったりしたらすぐにクビだからね。」かつて実際に計画的に教師を挑発して手を出させるように仕向け、平手打ちをした教師をクビに追い込んだ男子高校生もいました。

彼らにとって恐いものは何もありません。自分は退学処分になる心配もほとんどなく、さらに親に嘘をついても親が子どもの嘘を見抜けないのですから。

この頃生徒達を見ていてつくづく感じることは、自分の歯止めになる対象がない、つまり畏れ敬う存在がない、ということです。家庭における親、学校にあっては教師も、まったく畏れるに足りない存在なのです。

私は教師になって20年が経ちましたが、保護者や生徒達の「消費者意識」が年を追うごとに強くなってきています。子ども達は物心がつくとほぼ同時に、お金を手にすることによってさまざまな商品やサービスを手に入れられることを知ります。そして消費する主体として育てていきます。世の中では、消費者として子どもであろうと大人と何ら差別されることなく、「お客様」として丁寧に扱われます。こうして幼い時からお金を持つことによって得られる甘く心地よい「全能感」を知ってしまいます。彼らは商品を買う時は、その商品にお金を払う価値があるかどうか、また示された値段が適正であるかどうか値踏みをするようになります。そして、今や教育もその対象になっています。常に私どもの授業や生活指導に対して「どれだけお金を払う価値があるか？」を検討した上で、「こいつの言うことは聞かなくてよい」とか「少しだけ聞いておこう」とか自分で判断する訳です。ですから値段に見合った価値がない「サービス」を受けることは積極的に拒否します。聞きたくない授業を我慢して聞くことは不愉快です。当然、不愉快なことにお金を払う価値はない、という論理です。まして私がいるのは私立ですから、高い代金を払っている分、それに見合ったサービスを提供しろ、という要求はなおさら顕著なのだと思います。

私は、教育がサービス業として位置づけられることには異論はありません。ただ、お金と直接引き換えにしてとらえられることには違和感を覚えます。

現代は「自由」が賛美されて久しいですが、「カラスの勝手でしょ」という替え歌のフレーズが流行った1980年代。ちょうどこの頃から「自由」の意味が変わってきたように思います。法律に触れなければ、また人に迷惑をかけなければ何をしても良く、文句を言われる筋合いはない、と胸を張って主張する人間が増えました。何ものからも拘束されずに気ままに振る舞えることこそが理想であるとするこの考え方は、それまで共同体において重んじられてきた道徳を否定するものでした。その道徳とは例えば「礼儀」とか「長幼の序」とか「忍耐」と呼ばれるものです。こういった伝統的なモラルを否定し、ただ好き勝手にすることを追い求めた結果、人々の心の「たが」がはずれてしまったようです。時はバブルの絶頂期に向かっており、多くの人が物やお金によって自分の存在を確かめて酔っていました。私は、この時期に高校・大学時代を迎えておりました。「カラスの勝手でしょ」的な発想は、この時代の子どものみだけでなく、大人達にもかなり浸透していたのではないのでしょうか。ただ、こうした心のあり様の変化を、時代のせいにはできないと思います。なぜなら社会や世の風潮をつくるのは人間だからです。

この時期は、多くの人が「他人と違う自分の独自性」なるものを血眼になって確立しようとした頃ではなかったかと思えます。それ以来現在に至るまで、「個性」は神聖なものとして追求され続けています。この「個性」とは、他の人にはない自分だけの優れた才能や技能であり、人は必ずこの「個性」を持っているので、それを探ることが「自分探し」であり、人はそれをするべきであると考えられています。我慢なんてしなくていい、年上を敬う必要もない、他人とどのような関係を築くかよりも先に個人としての自分らしさを発揮すればよい、そんな傾向が続いているのではないのでしょうか。

かつて社会規範として重んじられてきた「道徳」と呼ばれるものは、我々

がけっして冒すことのでない存在、目に見えない敬うべき存在を振り所として、多くの人々との社会生活をあらしめてきたものだと思います。

たとえそれが法に触れなくても人に直接迷惑をかけることなくても、いけないことはいけない、という深い心の規律であり、理屈抜きに守るべきものだと思います。

今申しあげた「カラスの勝手」的な「自由」の追求がもてはやされている一方で、数年前から「自己責任」なる言葉が盛んに使われています。アフガニスタンで日本人が人質として捕らえられた時に、当時の外務大臣が使ったあたりから広まったようですが、この言葉の響きには私には不気味な冷たさを感じます。確かに人間は自分の行動に責任はもつべきですが、この「自己責任」という言葉は、「自分の意志でとった行動なのだから、たとえその結果本人が困ったことになったとしても、他人は手をさしのべる必要はない。関わる必要はない。」とされているようで寂しい気がします。

「カラスの勝手でしょ」と他者との違いを自由に追い求める姿勢と、誰かが苦しんでいる時に「自己責任」の一言で片付ける考え方は、周りの人達との連帯がなく、個人をバラバラに切り離して考えている点で根本は同じだと思います。人間同士のつながりが希薄になっているといえましょう。

また、平等や公平が絶対的な正義であるかのようにそれをむやみと振りかざす傾向が強いのも、最近の方向性の一つだと感じております。

学校の運動会の徒競走で「うちの子がビリになってさらし者になるのは可哀想だ。差がつかないようにしてほしい。」という保護者の申し出があり、それならばクレームを受けないようにと、予め体育の時間に短距離走のタイムを測り、できるだけ差がないグループを同じレースにすることにしたり、という例はかなり一般的になっています。極端なところでは、徒競走なのに順位をつけず、横並びで一斉に手をつないでゴールするという話も聞きます。「教育は平等であってしかるべきだ」と声高に叫ぶ方が多いですが、その論理でこういった運動会の徒競走のあり方を正しいと見るのは、ゆがんだ民主主義の幻想だと思います。

私がいる高校はスポーツの推薦枠があって、いくつかの種目で全国大会に出た実績があります。たとえば野球の甲子園、サッカーの選手権大会、バスケットボールのウィンターカップに出られるのは、県下約200校の中です。1チームだけです。最後まで一度も負けずに優勝しなくてはなりません。私はよく野球の試合の応援に行きますが、優勝できた時は、喜びで心がどうしようもなくしびれます。ここ数年、何度か全国大会に出られるようになって思うことは、強くなったのに伴って、選手達の人間的なレベルも上がってきたように思います。以前よりも謙虚になり、勉強にも一所懸命取り組むようになりました。ここ一番、という勝負の時は、選手自身のふだんの生活に対する姿勢が影響するように思います。

スポーツでも勉強でも、勝って一番になることは素晴らしいことで、惜しみない称賛に値するはずですが、しかしながら、先ほど申しあげた「ゆがんだ民主主義の幻想」によれば必ずしもそうではないのです。

この考え方によれば、勉強も「皆にわかるように教える」ということになりませんが、はっきり申しあげてそれを徹底するのは不可能です。人によって理解度や記憶力といった能力は違いますから、通常の授業のような集団の学習活動で、限られた時間で一定の到達度を達成するのは無理です。教師の教え方次第だろうと反論されそうですが、生徒達の能力差は実に大きいのです。無制限に時間をかけない限り、「皆が同じようにわかる」とはあり得ません。

私は、義務教育の間はできるだけ「皆がわかるように」することは必要だと考えますが、高校からは、どんどん上を伸ばしていくことがもっと必要だと思います。学習に伴う能力や知的好奇心やその子を取り巻く環境はさまざまですし、それぞれに合ったペースというものがあります。世界には学校へ行きたくても行けない子もいるのを承知の上で、あえて勉強しなくてはならないことをしてもよいと思います。「皆に同じようにわからせること」が美德と誤解されて、かつてのゆとり教育が失敗であったことは明らかです。勉強することは、基本的に知識をつめこんで必死に考えることですから、可能な限りどどんとつめこんでいけばよいのです。多くの知識を学ばないと、思考力も育たないと思います。

一方では「個性」のすばらしさを謳いながら、その一方では「平等」を要求する矛盾。これに気付いていない大人が多いと思います。うちの学校では現在英語と数学の授業は成績順にクラスを分けています。試験ごとにクラスの移動がありますが、時々「どうしてうちの子はクラスが落ちたのか？」と授業担当の教師に問い合わせる保護者がいます。また成績通知をみると「どうしてうちの子はこの成績なのか？もっといいはずなのに」と電話してくる保護者もいます。だいたいそういう保護者は、その理由をたずねることが目的ではなくて、教師の教え方が悪いと抗議することが目的なのですが、集団の中における相対性というものがまったく頭になく、自分の子どもしか目に入っていないのです。

自分にとって不利益なことが生じると、「これはいったい誰のせいなのか？」とすぐに犯人探しをして、犯人を特定したらとことん責め立てる傾向が目立ちます。単純に自分を含む被害者と加害者という図式を組み立てる構図は、さまざまな場面で見受けられます。報道を見ていると、こうした「被害者」

意識をおおるマスコミの扱い方を嘆かましいと思っています。

例えば、最近千葉で自殺した私立中学の2年生の親が、学校を提訴しました。理由は、自殺する前に担任に提出した学習ノートに「最近、インターネットの自殺サイトの人とは話が合う」と書いていたのに、それを読んだ担任から家庭に連絡もなく、学校として何の対応もしなかったために息子は自殺した。対応していたら自殺はしなかった、ということです。

また同じようなケースですが、以前自殺した中学生の両親がテレビカメラの前で話していました。「こうなる前に、なぜ学校は息子の様子が変わってきたことに気づいてくれなかったのか。原因は必ず学校にあるので、学校の責任を徹底的に追及するつもりだ。」とエキセントリックに訴えていました。

教師として生徒の自殺は最大限防ぎたいのは当然ですから、そういう最悪の事態を避けるために努めるべきではありません。ただ私はこう思いました。

「最愛の我が子を持った悲しみを何かにぶつきたい気持ちはわからなくはない。しかし、一番身近にいてその子を見ているはずの両親が、なぜ自分の子どもを見ていて何も気づかなかったのか。それを棚にあげて他人の責任を追及するのは恥ずかしいことではないのか。それなのに堂々と訴えたり、臆面もなくテレビに顔を出して他人を責めたりするなんて、どういう神経をしているのだろう。」と。

小中学生の自殺については、大人の自殺と分けて考える必要があると思っています。多くの自殺の理由とされている、いじめや暴力行為は許すべきではありません。ただ、人間同士が関わっていく中では、酷い目に遭ってつらい思いをすることも少なからずある訳ですから、悪いことをやめさせるのと同時に、つらい経験に耐えて生きていける強い心の壁を作っていくことが必要だと思います。問題を解決できる力や我慢強さを身につけさせてあげることも我々大人の大切な務めであると思います。この頃は、子どもが壁にぶつかる前に、前もって壁を取り除いてあげようとする大人が多いようです。例えば新年度のクラス替えの前に担任に連絡してきて、「うちの子は誰々が苦手なので、その子とは違うクラスにしてください。」と言ってくる保護者は珍しくありません。

そうやって気の合った人とだけ関わって一生を過ごし通すことができれば、そんなに楽なことはいないでしょうけれど、現実はそのとおりではありません。

皆さまが支援してくださっているインターアクター達は、入会してきた段階で、基本的に奉仕の心をもった志の高い若者です。将来、名実ともにロータリアンになれる子はそう多くはないかも知れません。しかしIACで、ロータリアンの精神を理解して活動することで、心はロータリアンになれる子は少なくない信じています。

彼らが深い思いやりの心を育て、周りの人達とのつながりと共に自分自身が在ることを認識できるように、そして将来は自分に運命として与えられた社会的使命に気づき、その使命を全うできるように自分を高めていけるような人間を育てていきたい、と切に願っております。

守るべきものや、普遍的な価値というものが見えにくくなって底が抜けたような現代だからこそ、新世代を育てることは、むしろやりがいがあるのではないのでしょうか。

それでは、これからご指導の程をどうぞよろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

卓話の御礼

細谷 重徳会長

林様、本日は有難うございます。

中学・高校のお子さんお持ちの会員の方々は本日の卓話よく分かりましたでしょうか？

林先生には教養・生活に関してお話を頂きました。

日時：平成22年4月7日 水曜日

本年度第36回 通算1808回

卓話 相撲 春日王関

「インタビュー・ここが聞きたい大相撲あれこれ」



第10回定例理事会

水口 衛／武者恵吾／増田昌美／岡 真治